

# 農

地域を支える

農業人

WAZABITO

## PROFILE

ばんの みきお

伴野 幹雄 さん

BANNO MIKIO

66歳

愛西市赤目町

## 持続可能な農業を目指して

愛西市でニンジンやダイコンを栽培する伴野幹雄さんは、有機栽培にこだわり持続可能な農業の実践に取り組んでいます。48歳のとき、父の病気をきっかけに就農して以来18年間、奥様とともに営農を続けてきました。

伴野さんはエコファーマーの認定を受け、化学肥料の使用を抑えた農業を行っています。エコファーマーは、環境に配慮した持続可能な農業を行う生産者に対して国が認定する制度で、認定を受けることで認証マークの使用や税制面での支援を受けることができます。認定期間は5年間で、現在は法律の改正で新しく始まったみどり認定の取得に向けて準備を進めています。

「土壌の生き物はみんな作物の成長に必要な存在です。豊かな土壌を作ることが、おいしい作物を育てることにつながります」と話します。有機肥料や有機物を原料とした土壌改良剤を活用することで、土中の微生物の活動を促します。これによって病原菌の被害を防ぎ、通気性や保水性の高い団粒構造を形成して作物の生育に適した環境を作ります。特に伴野さんの圃場では、環境への負荷が少ないというカカオの種子の皮を原料としたココアハスクを中心に植物性の資材を使っています。付き合いのある業者さんから購入していますが、近年人気が高まっており、年々調達が難しくなっていると話します。また、最近では気候変動による高温と乾燥が続いており、キノコの廃菌床を土壌改良剤として用いることで保水性を高める試みを検討していますが、ココアハスクと同じように資材としてまとまった量を確保することが今後の課題です。

自分が納得できるものをつくり続けるため農業に取り組む伴野さん。「手間をかけて作った野菜だから自信をもっておいしいと言えます。これからも新しい栽培方法に挑戦しながら、安全・安心なものを届けていきたいです」と力強いメッセージをいただきました。

